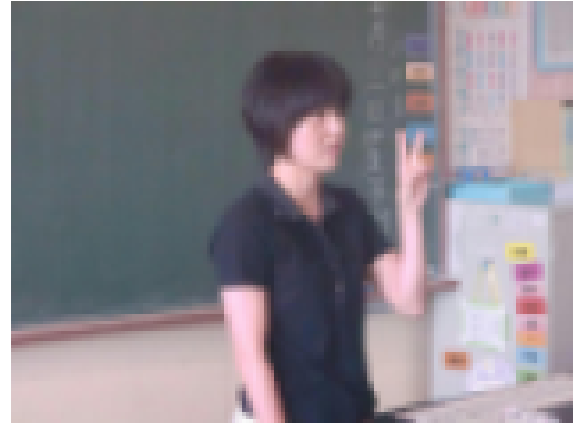


続・学びの実感

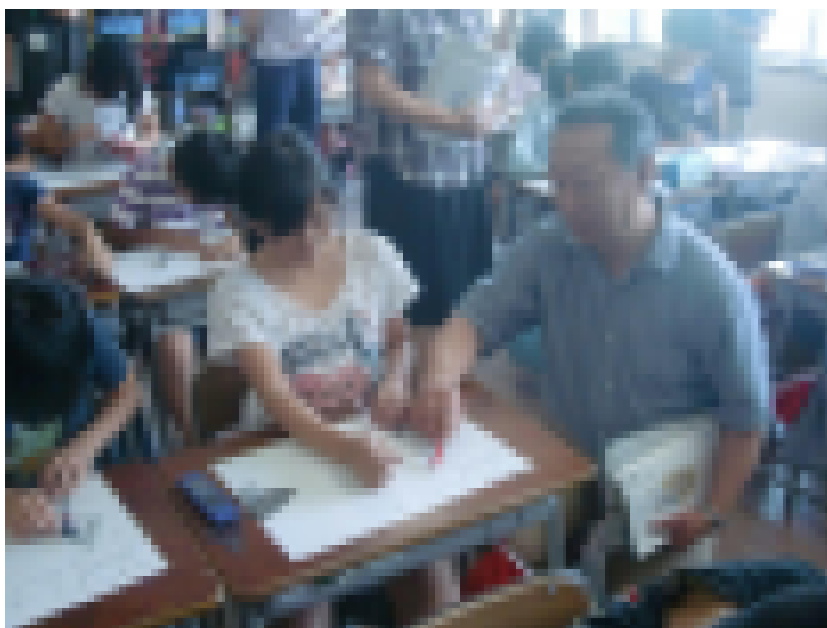
四角形を作ろう

◇今年度1回目の全校授業です。伊勢先生と二人三脚で普段の授業を進めながらの授業実践でした。また、教育実習生を受け入れ、4週間の指導をしながらの授業づくりと指導案作り。お疲れ様でした。少ない事前検討会の中で、様々な意見が出てきました(下記参照)それらを取捨選択しながら前谷先生と伊勢先生が授業に取り組みました。



◆事前検討会から…

- ・前時までの学習で平行四辺形の定義をしっかりと確認しておくことが大切になってきますね。
- ・全体に配布するプリントは、点Bが書かれたものとする。その後、指導案通りに、辺BCを全体で記入して各自の活動がスタートする。T2の伊勢先生が机間巡視する中で、補助カード(辺ABと角度が記入してあるもの)配布する。
- ・ワークシートに図形を書く時に実際のサイズはとても小さいです。枠は予定通り大きくし、上位群には言葉による説明を書かせてもいいかも…。
- ・「児童の考えを共有し、掲示しておけるものは何か?」と考えた末、作業の仕方を説明するのだから実物投影機が一番であろう。ワークシートは、しばらく黒板に貼っておき、作戦名を考える方向で…。
- ・ペア学習の時に、時間があれば実際に書かせる方法もあるかもしれない。時間次第ですが…悩みますね。
- ・互いのワークシートを交換し、一言コメントか書かせようと思うのですが、「平行四辺形の向かい合う辺は平行である。というものをうまく利用していました。」というものが出ればいいと思うのですが…。
- ・アナウンスでうまく引っ張ればいいのですが…。
- ・適応問題を用意しておき、時間があったら取り組ませてみては?



◆事後検討会から…

《自評》

◎前谷先生…

- ・本単元で使用している教具を使用しました。教材研究をしっかりと、教具を工夫すれば効果が上がると感じました。
- ・作図の横に自分の作業の跡(文章)を書けるようになりました。
- ・「認め合い」では、相手のことを褒めることができていた。算数のこと(内容がずれていない)がきちんと書かれていた。
- ・アナウンスの仕方で迷ったり、困ったりです…。

◎伊勢先生…

- ・集中力が持続しない、しにくい

児童の下位群の児童をどう引っ張り上げるか、ヒントを与えるかが課題だと思いました。

- 指導時に同じ教具を使用するのは、とても効果的でした。
- 認め合いができていたように思います。
- 作図の作業は、ほぼ全員があたっていたように思いました。
- 視覚的にも前時の確認をしっかりとすることが大切だと思いました。

《事後検討会から》

- 前時の復習が丁寧でとても良かった。視覚的に分かりやすい。
- アナウンスで道具の確認をしても良かったかも…。
- 図を正確に書くためのフォローの大切さを感じました。
- 道具を使った説明が良かった。
- 「ナイスでした」で、それぞれの考えを認め合うことができた。
- 伝え合いの際の、児童それぞれに能力（理解力・表現力）の違いに差があり、先生のフォローが大切であると感じました。
- いろいろな方法で図を書いた方がいいのか、点Dを見つけようとした方がいいのか…難しいですね。



- 友達の考えを聞いている時に、質問する児童もいました。きちんと聞いていることが分かりました。
- 意図的に席を決めたわけでもないのに、ポーっとしている児童がいなかった。それなりに学習や作業に取り組んでいた。
- ノートの使い方を統一してはどうですか。
- 図形の説明の時、国語の物語文を慣れている子供たちは長文を書こうとしますが、やはり分かりにくいですね。箇条書きの方が分かりやすいと思います。
- 様々な教具に良い点悪い点がありますね。状況に応じて効果的な使い方を工夫する必要がありますね。

◆課題のリレー

(有効…○ 課題…●)

- 前時の復習を絵や図、文章を使うことは効果的であった。
- 児童の考えを引き上げたり、まとめたりするのにアナウンスは非常に効果的であった。
- 道具の使い方が分かる、しっかり使えることが重要である。

次回の研究授業は…

7月11日(金) 2校時 6年1組(少人数形態)
佐藤学級 「比」…です。

低学年・中学年・高学年

成 果	
課 題	

育てたい力

--